



ピッポ新聞

2003

3

No.173

子どもの本専門店

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

ピッポ

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>

Email pippo@diana.dti.ne.jp

山里からの便り

佐久間雅哉

サスケ、猪を狩る！

青い空に雪景色がまぶしい穏やかな午後、いつもの散歩コースの山道をサスケと歩いていました。さすけは相も変わらず、石を転がしては、吠えたてて追い、それをくわえて戻ってくる遊びをしています。狩猟犬の本能なのでしょう。山仕事に連れていっても、いつもこの遊びをします。おかげで、わたしたちは熊の心配をしないで仕事ができるので助かります。

ところが、この日はいつもと様子が違いました。山全体にドウツ、ドウツと、太鼓をたたくような低い音が響くのです。そのうち、ブギヤーと悲鳴！これはいつもの遊びとは違う。わんわん、ドウツ、ドウツ、ブギヤーと、ただならぬ気配。山の上の方のクズの茂みが激しく揺れています。サスケが猪の子を襲い、親が威嚇しているのだろうと思えました。姿は見えないけれど、私の方に向かってきます。とつさに、腰へ手をやりましたが、今日は腰ナタをもっていないません。いつ親が飛び出してきてもいいように、クズの茂みを凝視し、身構えました。

出た！サスケが猪の首にかみつキ押さえ込んでいます。猪は激しく抵抗し、私の方へ二頭が絡み合って転がってきます。勢い余ったサスケは、道下へ、残された猪は、私の真正面のクズの茂みに、首から血を流して呆然と立ちつくしています。

低い音は、この猪の吐く息の音、悲鳴はサスケに噛まれた時のものとわかりました。親は見あたりません。独り立ちしたばかりの子どもの猪なのでしょう。

「サスケ！上だ」、声を掛けました。私も目にした光景に興奮していましたが、サスケに初めての狩りを成就させてやりたい思いもあつたのでしょうか。

とつさに、指示を出していました。指示したのに、サスケは猪を通り越してしまいました。

「サスケ！下だ、下ッ」

今度は逃がしませんでした。立ちつくす猪の上へ飛びかかり、転がって道へ落ちてきました。サスケは横たわる猪の首をなしません。猪は前足をケイレンさせ、雪は見る間に赤く染まっています。サスケを引き離すつもりで「もういい。おすわり」と、号令しました。

すると、ちゃんとお座りをしたのです。興奮していたので、この素直さは意外でした。おかげで、私も冷静さを取り戻しました。猪は眼をむいたまますぐに絶命。

さて、どうしたものか。ウリボウではありません。生後6ヶ月はたっているでしょう。それなりに大きくて、藪に放置するわけにもいかないと思えました。持ち上げることは可能です。この猪の死に向き合う方法は、山の中に埋葬するか、食べるかだと思えました。

肉としての量は充分ありそうだし、これも山に暮らす何かの縁かと思ひ、持ち帰って食べることにしました。サスケの綱で四肢を縛り、ぶら下げてかえりました。血は我が家まで点々と続

き、近所の人が見たら何事かと思うだろう
など、気になりました。

散歩に出かけて四十分たらずで、血だらけの猪をぶら下げて帰ってきたので、女房も娘たちもビックリです。一番驚いているのは私自身です。まさか、イヌの散歩で猪を捕るとは思ってもみなかったですからね。

解体して食べると言ったら、娘たちからは「かわいそう」「埋めてあげれば」「何故助けてあげなかったの」と、ブーイング。でも、こうなったからにはちゃんと食べてあげるのが、猪に太する礼儀つてもものだというので解体を始めました。

しかし、これまでに鶏やへびはさばいたことはあっても、体長 70 cm、体高 43 cm、体重 12 kg の四つ足は初めてのことです。ジョン・シーモアの「自給自足の本」をたよりに見よう見まねと、推測で解体するのですから、夕食を挟んで 6 時間もかかってしまいました。

結果、メスの猪で 5 kg の肉と、心臓、肝臓、腎臓がとれました。雑肉や骨は犬たちにやり、毛皮はなめして尻皮を作るつもりです。翌日頭や背骨、胃、腸などは埋葬しました。肉は竜田揚げ、猪鍋、みそ煮込みにして、たべきれない分は近所に配りました。若いいのししだからか、肉は柔らかく、クセもそれほど気にならず脂身のない上質なものでした。

解体中、この猪に対する罪悪感や恐怖心はありませんでした。逆に、いとおしさを
感じ、一つ一つの作業をやさしく、大切にやろうという気になりました。一頭の猪が

殺され、料理されて、人の口に入るまでの一連の行為は本当に命の大切さを実感させてくれました。

インディアン、アイヌ、エスキモーの人たちの精神文化が理解できるように思いました。

後は、毛皮を巧くなめして尻皮にして、山仕事に出れば、あの猪に対して礼をつくしたと言えるのではないかと思います。それにしてもサスケはすごい犬です。でも、あれが大人の猪や熊だったらどうだったのでしょうか。今後のサスケに心配半分、期待半分といったところですよ。

ねーこの本読んだ？



『ねえ どっちがすき?』(安江リエ・文 降矢奈々・絵 780円 福音館書店)
ねえ、きみはどうする? たとえばさ、め

だまやきと、たまごやきどっちがすき? つてきかれたらさ。かぜと、雨とどちがすき? ブランコとおすべりとどっちがすき? つてきかれたらさ。・。? そつだよ

ね、「りょうほうすきつ」って、こたえるときと、「こつちー」ってこたえるときと、

「両方きらい!」って云うときがあるんだよね。

『みんなおおあくび』(敷内正幸・作 780円 福音館書店)
きみはさ、猫があくびしたとこ、見たことある? あくびつ



とある? あくびつて、いろいろな動物もするんだね。特ににはるになるとあくびがおおくなるよ。『春眠暁を覚えず』て云うものね。赤ちゃんのあくびつてとても可愛いね。これは実感!

『てんのくぎをうちにつた はりっこ』(かんざわとしこ・文 ほりうちせいいち・絵 840円 福音館書店)
はりねずみのはりっこが大活躍するお話。



あるとき、天の釘がゆるんで、この世が大きくなる。このままでは、世界が崩壊してしまふ。くまばあさんに育

てられたはりっこは、釘を打ち直しに天へ出かけることを志願した。途中には火を吐

くおおへびが・・・。年中からの読み聞かせにどうぞ！

『世界がみえる 地図の絵本』(ブライアン・デルフ・作 1732円 あすなろ書房)



なにやら今、イラクをめくって世界は大揺れですが、このイラスト本を見て、地球は何と素晴らしい所なのかと改めて思いました。それと、昔一枚の世界地図のイラストマップを眺めて、心躍ったことが思い出されました。世界の自然の豊かさや、多くの文明や文化のすばらしさを感じられます。あそこへも行ってみたい。ここへも行きたいな、など思いながら眺めると、楽しさ

も倍増します。それにしても無理矢理戦争を起こそうとするブッシュ・アメリカと、それに追隨する小泉・日本の何と愚かしいことか！

『昆虫のくらし 生きものROM図鑑』(海野和男・高嶋清明・文・写真・映像4725円 偕成社)

昆虫のことを知りたいが、図鑑ではちょっと物足りないひとには、この本は便利だと思えます。林、草原、水辺と生息別に

昆虫を紹介しているのをはじめ、それぞれの



の昆虫の生態や特徴などが、海野さんの写真と文で分かりやすく説明されています。それに、なんといつても、CD-ROMがついていて、パソコンを通して動く画像が見られることが最大の特徴です。全部で約500種のこんちゅうが、800点の写真と、60分の映像で見ることが出来ます。

『アマガエルとくらす』(山内祥子・文 片山健・絵 1365円 福音館書店)



偶然、家の台所に入ってきたアマガエルとつきあいはじまり、それがなんと13年も続く話が、時にはユーモラスに語られている観察日記。これを読んで、

はじめて、アマガエルは随分な長生きをするものだと知り、案外人間になれるものがあることや、個性もそれぞれもっていることなども知った。片山健さんの絵もとても人間くさいアマガエルに描かれていておもしろかった。

『ねぎぼうずのあさたろう その4』(飯野和好・作 1155円 福音館書店)



もちろん、虎造調だね。

『アネイリンの歌 ケルトの戦の物語』(ローズマリ・サトクリフ・文 本間裕子・訳 1890円 小峰書店)



吟唱詩人アイネイリによって歌われた、イギリス北部の最古の叙事詩「ゴドデイン」にもとずいて、サトクリフが紡ぎだしたケルトの戦いの物語。白い鹿を救ったことが縁で、ゴドデイン王の招集に呼ばれて騎士として参加するゴルシンの従者としてプロスパは奴隷コンとともにこれに従ったのだが・・・。中学から

インフォメーション

3月20日「ゲド戦記」待望の 続編発売！

『アースシーの風』ゲド戦記5
(アーシュラ・k・ル・グウィン・文
清水真砂子・訳 1890円 岩波書店)

かつての大賢人は、70歳になった。妻のテナー、成長した養女テハナーと共に、故郷の島でひっそりと暮らすゲドのもとへ、ハンノキという壺直しのまじない師が訪れた。妻を亡くしたばかりのハンノキは、悩みをうち明ける。夜毎の夢で、死の国のさかいから手を伸ばしたきたり何かを訴える妻に、ハンノキ言い知れぬ恐れを抱いていた。一方、テナーとテハナーは、最近また暴れだした竜をなだめるため、レバンネ王に呼び出されてハブナーの王宮に赴く……。

無数の島々と海からなるアースシー。並はずれた魔法の力をもつゲドの波瀾万丈の生涯を軸に、アースシー世界の光と闇を描く壮大な物語

『影との戦い』1 1680円 『こわれた腕環』2 1680円 『さいはての

島へ』3 1785円 『帰還』5 1890円

(以上は岩波書店のチラシを抜粋し転写しました)



ピッポでは全巻セットや単品を全巻取りそろえてお待ちしております。

3月22日「ばあやのお話か」 春休み特集

春のひとときを、宮崎久子さんの楽しいお話や、読み聞かせですごしませんか。午後2時から、ピッポで春休みお話を開催いたします。誘い合わせてお出でください。

しずおか演劇祭実験劇場 「仮宿橋物語 ゆめの乱」

そりやー、オメガ。騙されなきゃ、わからねことだってあら
この実験劇場は、演劇が抱えている轟動的な力に、

より接近し、濃厚な身体ステージを実現したいと考えております。

動くこと視ること聞くこと喋ることの不自由な者とそうでない者との交流が醸し出すことこの極致を求めながら……。(主催者)

3月21日午後6時半から 22日は午後1時半と午後6時半の2回
入場料 前売り1800円(当日2000円) 高校生以下1500円(1700円)
会場はサルナートホール(静岡駅近く)
券はピッポに有ります。

★インターネット・ショップ「ピッポ古書クラブ」では、子どもの本をちゃんと評価して購入いたします。いつでもお持ち下さい。

(遠距離の方はリストをメールか、ファックスでお送り下さい。その場合、本の状態なども可能な限り表記して下さい。リスト拝見の上、折り返しだいたいの購入値段をお知らせいたします。五十冊以上と貴重本購入の場合は、送料はこちらで負担いたします。福音館の「こどものとも」「かがくのとも」「たくさんのふしぎ」などの古い号数のバックナンバーなども歓迎です)

★ピッポ古書クラブは、アマゾンジャパンのユーズドブックコーナーへも、3月から古書のアップを開始いたしました。